

自ら考え、表現し、学び合う生徒の育成

～主体的で対話的な学びの工夫を通して～

郡山市立緑ヶ丘中学校 校長 柳沼 久裕

## 1 研究の趣旨

本校では、昨年度から「自ら考え、表現し、学びあう生徒の育成」を研究主題として研究を進めてきた。その成果として、「Q-U」と「学級力アンケート」が、質の高い学習集団づくりに生かされ、学習指導及び生徒指導の両面に優れた効果が表れることを実感できた。一方で、課題追究に向かう意欲や好奇心を高め、主体的に学習に臨もうとする顕著な変容が見られたかという点では課題が残った。そこで、これまで行ってきた上記調査をもとにした実態把握を継続しつつ、新学習指導要領にも示されている「主体的で対話的な学び」を生み出す授業のあり方を各教科で追究し、意図的に授業改善に取り組むことで、本主題に迫った。以下が、本研究の研究仮説である。

日々の授業で、学習形態や学習活動を工夫することによって、ともに学びあえる学習集団を育てることができれば、生徒一人一人に学びが成立し、確かな学力が身につくであろう。

## 2 研究の概要

### (1) 「Q-U」の活用

- Q-Uの活用を通して、学級の実態を客観的に把握し、各学級の実態や課題に応じた授業を実践することで、自他を尊重し思いやる生徒を育て、主体的に学びあう学習集団づくりを目指す。
  - ・ Q-Uの実施時期…5月、11月
  - ・ 結果分析の共有化→授業改善
  - ・ 二者相談・チャンス相談との連動→意図的な学級経営

### (2) 「学級力アンケート」の活用

- 学級力アンケートの活用を通して、学級集団の実態を客観的に把握し、「見える化」して生徒に提示することで、各学級の課題を生徒自身が改善しようとする学習集団づくりを目指す。
  - ・ 学級力アンケート…多面的に学級の状況を診断するための子供向けアンケート
  - ・ 生徒の主体的な学級自治意識の醸成

### (3) 各教科での、「主体的で対話的な学び」を意図した授業改善

- 生徒の実態をふまえながら、各教科の特質に応じた「主体的で対話的な授業」を工夫することで、確かな学力の定着を目指す。
  - ・ 各教科における基礎学力向上計画の作成
  - ・ NRTの分析（5教科）
  - ・ 各学年代表授業及び一人一授業による授業研究
  - ・ 「考え、議論する道徳」への授業の質的転換（郡山市研究推進協力校）

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ① 学級の特質や傾向を意識しながら、主体的で対話的な学びを工夫した授業を組み立てたことにより、生徒が意欲的に取り組んだり、他者との交流を通して自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。
- ② 提案授業、及び一人一授業を広く参観することを通して、自分の教科の授業では見られない生徒の新たな姿を発見できた。
- ③ 他教科の実践から、教科の枠を超えて活用できる指導方法等を見だし、学習活動・学習形態の工夫、学習ツールの活用等、授業改善に向けて視野が広がった。

### (2) 今後の課題

- ① 「学級力アンケート」については、有用感は職員全員が感じているところだが、実施、分析等にかかる労力がかなり必要になる。働き方改革が叫ばれる中、検討も必要である。
- ② 「考え、議論する道徳」を念頭に置いた道徳科の授業改革を推進することと、主体的で対話的な学びをめざす教科の授業づくりとの連動（相乗効果）に期待したい。